

ア 農山村の多面的機能の維持と環境保全

農業・農村が有している、水資源のかん養、農村景観の形成、憩いややすらぎの場の提供、国土保全などの多面的機能が将来にわたって十分に発揮されるためには、営農の継続が不可欠です。

このため、農地・農業用水路等の農村資源の適切な保安全管理、遊休農地の解消、野生鳥獣被害の防止に取り組むとともに、これらの取組の広域化や農業者だけでなく非農家住民も含めた地域ぐるみで実施する体制づくりを進めます。

【達成指標】

項目	平成22年度	平成29年度 (目標)	設定の考え方
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	22,484ha	50,000ha	多面的機能支払事業及び中山間地域農業直接支払事業の推進により、農振農用地面積の約1/2の取組をめざす

【目指す5年後の姿】

- ◆ 農地や農業用水路等の農村資源の保全活動に、農業者だけでなく地域住民やNPOなど非農家住民の参加が広がり、良好に保全されている農地面積が拡大しています。
- ◆ 集落の話し合いに基づく自律的・継続的な農業生産活動等を行うことにより、農地の保全が図られ、農業・農村の持つ多面的機能が維持されています。
- ◆ 野生鳥獣による農業被害が減少し、農業者の生産意欲が高まり、安定的な農業生産活動が営まれています。

【展開する施策】

● 農地や農業用水路等の保安全管理の推進

- 農地・農業用水路等の農村資源や農村環境を保全するため、地域ぐるみの共同活動として行う水路の泥上げ・補修、草花の植栽、農道への砂利補充などを支援します。
- 「長野県農地・水・環境保全向上対策協議会」を中心に市町村及び農業関係団体と連携し、地域の核となるリーダーを育成します。
- 農業・農村の多面的機能に対する県民の理解を深めるための情報の提供や学習機会の充実等を図ります。
- 保安全管理体制を強化するため、共同活動への非農家住民等の参加や活動組織の広域化を進めます。
- 共同活動の取組が進んでいない地域において、市町村等と連携しながら、一層の制度の周知を図るとともに、活動組織の立上げや体制づくりを支援します。
- 畑地かんがい施設を有する地域など、畑地帯における取組の拡大を図ります。

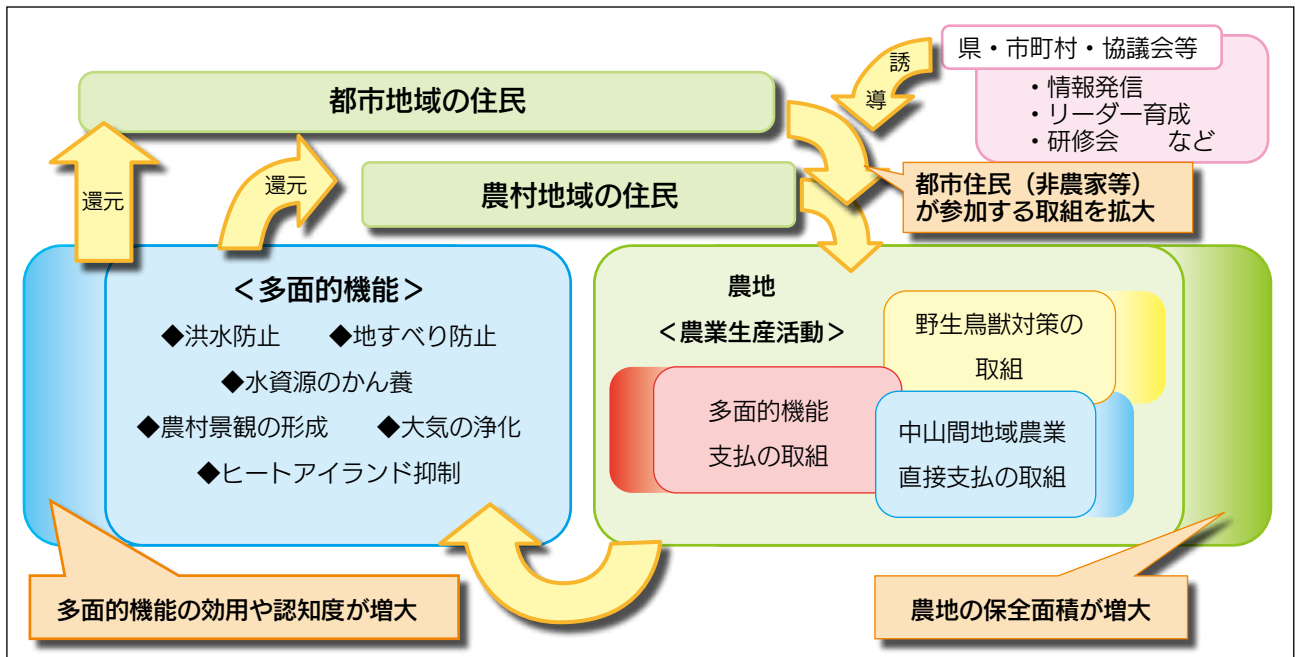
● 中山間地域の継続的な農業生産活動の推進

- 中山間地域において、耕作放棄地の発生防止と多面的機能の維持を図るため、自律的かつ継続的な農業生産活動の体制整備に向けた取組を支援します。
- 担い手不足が懸念される中山間地域で、集落営農組織の育成や地域農業の維持・発展に向けた営農体制の整備を地域の実情に即して支援します。

● 野生鳥獣対策の推進

- 野生鳥獣に負けない集落づくりを進めるため、野生鳥獣被害対策チーム等が市町村や大学、NPO等と連携し、追い払い等の防除対策、狩猟者の確保・育成による広域や集落ぐるみでの捕獲対策、緩衝帯整備等の環境対策、ジビエの振興による活用対策等総合的な取組を、集落自らが実践できるよう支援します。
- 鳥獣被害防止特別措置法に基づき市町村が作成する被害防止計画に沿った侵入防止柵の整備等を支援し、野生鳥獣による農業被害の軽減を図ります。

【営農の継続による美しい農村の維持】



♣ 農地・水保全管理支払交付金を活用した水資源の整備と自然環境・景観の向上 笹原資源保全委員会 (茅野市)

笹原地区は標高 1,100m の高冷地に位置しているため、水稻の作柄の安定には水源である温水ため池「御射鹿池(みしゃかいけ)」の維持管理が重要となっています。御射鹿池は国定公園内に位置し、ルリイトトン



【ため池の草刈り作業】



【水をたたえる御射鹿池】

ボなどの貴重種が生息しているほか、日本画の巨匠・東山魁夷画伯の作品「緑響く」の題材になったともされ、その美しい景観等から「ため池百選(農林水産省 平成 21 年度選定)」のひとつに選定されています。笹原資源保全委員会は、地域の農地や地域が誇る景観や環境を守るため、農地・水保全管理支払交付金を活用し、区民と土地改良区等の関係組織が協力し、ため池や水路の維持管理をはじめ、遊休農地の管理や環境保全活動などに取り組んでいます。